

川崎大師と所縁の深い門前町の一角にある本校は、創立当初から、地域住民や保護者と手を携え、その歴史と伝統を共に創っています。「参画・協働・共汗・共創」を合い言葉に新しい学校創りに挑戦しています。

地域とつくる「レインボープラン」 地域と共に進める学校運営

川崎市立川中島小学校

所在地：川崎市川崎区川中島 2-4-19 電話：044-288-3167
HPアドレス：<http://www.keins.kawasaki.jp/2/ke200501/>
教職員数：35名 学級数：15学級 児童数：481名
指定日：平成18年12月1日

コミュニティ・スクールの取組が生み出した「成果」



映画制作活動（野口宇宙飛行士も国際宇宙ステーションから出演）



充実した川中島英語（全学年で実施）



中日ドラゴンズ井端弘和選手（卒業生）の授業（キャリア教育）

■レインボープランで教育活動が充実

子どもが主役となる特色ある教育活動の推進と地域と連携した教育力の維持発展を目指して、学校運営協議会の意見を反映させながら、5年間の基本計画（長期プラン）を立案。子どもの悩み相談や、人権プログラム（かわさき共生共育）、キャリア教育、食育などの教育活動を充実。

■本校の教育課題の改善に向けた人事が具現化

学校運営協議会の意見を教育委員会に伝え、英語活動を充実するための教員（中学校英語科の教員免許をもつ教員）や、自然環境を生かした教育・理科教育を充実するための教員（理科環境担当教諭）の配置を実現。

■地域・保護者の学校に対する関心が高まり、連携も充実

学校公開が増え、学校評価におけるアンケート回収率も向上。建設的な意見が多く寄せられるとともに、教育支援への参加も増加。

今後の課題と対策

- 学校運営協議会の仕組みや具体的な取組について、さらなる周知を図ることが必要です。「地域」を中学校区まで拡大し、隣接小学校・中学校との連携方法を模索しながら、小中の9年間で子どもを育む地域コミュニティへと発展させていきたいと考えています。

熱い思いを語る5年目の名コンビ

学校運営協議会会長 大浦正彦
校長 榊原 誠

川中島小学校の挑戦を掲げてひたすら走り続ける原動力とお互いを認め合う二人。近隣の小学校と中学校のPTA会長を長く務め、中学校区地域教育会議の議長として創設以来12年間、エネルギーな行動力と人望で人をまとめる大浦会長を、校長は「万年教育青年」と呼び尊敬しています。大浦会長は、外部機関や民間企業等とも連携して新しい教育活動を企画し、実行する校長の熱い思いと姿に、経営者として培った感覚で「民間会社にスカウトしたい。」と兄のような優しい眼差しを向けています。二人はいつも、「川中島コミュニティは保護者、地域の皆さんと教職員の意欲に支えられている。子ども、地域（家庭）、教職員は川中島小の宝物。」と語ります。二人の現在の課題は、教職員の多忙化解消。困難な問題にあえて挑戦する姿勢にぶれはない。どちらかがいなければ、今の川中島コミュニティは全く違った展開だったかもしれないとふりかえる時期はもう少し先になりそうな予感を感じつつ、二人は後を引き継ぐ人の育成と新たな展開を模索しています。



コミュニティ・スクールで深まる 地域 保護者との信頼関係

津市立南が丘小学校

所在地：三重県津市垂水 2538-1 電話：059-229-2761
HPアドレス：<http://www.res-edu.jp/minamiokaoka-e/>
教職員数：49名 学級数：30学級 児童数：893名
指定日：平成17年12月26日

コミュニティ・スクールの取組が生み出した「成果」



夏休み子ども教室



南が丘「ふれあいまつり」



地域の子どもを語る会

■開かれた学校づくりの推進

保護者、地域住民が学校運営に参画することは、学校を地域に開くこと。教職員と保護者、地域住民との関係が密になることで、円滑な連携が可能になり、さらには、大きなトラブルを未然に防ぐことにもつながった。

■地域のつながりが深まり、地域ぐるみで学校を支援

学校運営協議会の提言を受け、保護者や地域住民による学習支援ボランティアの充実や、地域行事の創出などが実現した。地域住民同士のつながりが深まる中、学校への支援も拡充してきた。

■教育活動の活性化

「夏休み子ども教室」や「地域の子どもを語る会」など、新しい教育活動が生まれ、教育活動が一層活性化してきた。

今後の課題と対策

- 学校運営協議会の委員が代わっても、取組が継続されるよう、取組自体を定着させていくことが重要です。保護者の参画機会を増やししながら、その参画意識を一層高めていくことが必要です。

学校づくりは地域づくり

南が丘地域教育委員会(学校運営協議会)委員長 辻林 操

平成14年度～平成16年度の3年間、南が丘小学校は、文部科学省より「新しいタイプの学校運営の在り方に関する実践研究」の指定を受けました。当時、私は、保護者・地域住民の立場でこの研究に参画したのですが、指定当初、何度も議論したのが、「南が丘地域としての学校の在り方はどうあるべきか。」でした。その結果、「学校を核にした地域づくりを目指す」という方向性が見えてきました。つまり、学校運営に地域住民が参画することで人と人、地域と学校との出会いが生まれ、お互いに協力し合う中で連帯感が育まれるのではないかと、それが、よりよい子どもたちの成長につながると考えたのです。この目的実現のために南が丘地域教育委員会(通称Me)を組織し、学校と「緊張感のある協働」の関係を持ちつつ、毎年出される学校自己評価の検討を重ね、学校運営に対して提言を行って来ました。また、夏休みに地域住民を講師に招いて「夏休み子ども教室」の開催や、日頃の学習を支援する学校支援ボランティアの組織化、子どもたちに「地域を思う心」を育み、地域の連帯を深める南が丘「ふれあいまつり」の開催などに取り組んでまいりました。これらの取組は、地域に根付くとともに、学校の活性化につながっていると確信しております。



本音で語り合い
地域の声を生かす学校づくり

萩市は、明治維新胎動の地、城下町萩として広く知られており、本校区は、市街地に隣接した田園地域にあります。体育・医療・福祉施設も多く、近年、バイパス整備に伴い、住宅や商店が増えました。

萩市立椿西小学校

所在地：山口県萩市椿 3332 番地 1 電話：0838-25-2686
HPアドレス：http://www.haginet.ne.jp/users/hagichinzei-e/
教職員数：25名 学級数：12学級 児童数：251名
指定日：平成18年4月1日

コミュニティ・スクールの取組が生み出した「成果」



田んぼで どんこ遊び



だいがら
台柄を使ったもちつき



おばあちゃんの裁縫教室

■保護者と地域の願いを生かした学校運営の推進

「地域のよさを学んで欲しい」という学校運営協議会の提言を受け、学校教育目標に「ふるさと」を位置付けた。また、そのための学習活動を充実するため、社会教育主事経験のある教員の配置が実現された。

■地域で教育活動が充実

「地域の子は地域で育てる」という意識を啓発し、地域と協働して「どんこ遊び」「戦争体験を聞く授業」「田植え・稲刈り」など様々な取組を推進。学校の教育活動や児童への地域の理解が深まり、教育ボランティアへの参加も増加。

■子どもの成長と、保護者の意識変化

地域のお祭りやイルミネフェスタに参加し、踊りやハンドベル演奏を披露するなど、地域に出向いて活動する姿が増えてきた。地域に働きかける子どもの活動を通して、地域行事に対する保護者の意識が変わってきた。

今後の課題と対策

- 予算や人材の確保、学校と地域が協働できる活動を無理なく継続させていくことが課題。平成20年度から学校支援地域本部事業の指定を受け、学校と地域の連携に必要な予算や人材は確保したが、今後、ボランティア・リーダーの育成やPTAとの連携を推進することが重要である。

地域連携活動の組織化、システム化による成果

校長 藤本和義

新しく赴任してくると、多くの場合、地域の様子が分からず、地域との円滑な関係づくりには、大変なエネルギーと多くの時間を要します。しかし、コミュニティ・スクールの取組により、多くの地域連携活動が組織化、システム化されてくると、教員の異動はあっても、一定水準の地域連携活動が継続できるのです。これは、学校にとって、大変ありがたいことです。本校区には、指定前から、「田んぼの会」「本読み姫」「椿寿会」といった保護者OBや地域の方を中心とした学校支援グループがあり、教育活動に支援をいただいています。学校運営協議会に、これらの方々も委員として加わり、学校・家庭・地域が一緒になって意見を交換し、知恵を出し合うことで、協働して学校を盛り立てていく連携体制が、しっかりしたものになってきました。お陰で、子どもたちは、単に、地域の方々の協力により体験活動ができるというだけでなく、様々な人とのふれ合いを通して、地域の特色と人の温かみに触れることができ、ふるさとに対する愛着も自然と高まっているものと思います。



郷土に根ざした学校運営を実現する
コミュニティ・スクール

岩泉町立小本中学校

所在地：岩手県下閉伊郡岩泉町小本字鼻保15番地1 電話：0194-28-2039
教職員数：14名 学級数：3学級 生徒数：40名
指定日：平成20年4月1日

コミュニティ・スクールの取組が生み出した「成果」



中野七頭舞



新巻鮭づくり



鮭まつりでの「小本さんさ」

■地域・保護者の視点から課題の明確化～生徒の積極性の涵養

「生徒の積極性の向上を」との学校運営協議会の意見を基に、地元の産業祭り（「鮭まつり」）において、生徒が販売活動に挑戦する学習活動を実施。地域への貢献が、生徒の積極性を引き出し、自信も高めることに。

■学校評価を一層分かりやすく改善

学校運営協議会委員による学校評価の実施を踏まえ、学校評価の方法を改善。重点目標に数値目標を設定し、目指すものを明確化。

■地域へ貢献しようとする意欲の喚起

地域に支えられていることを実感し、生徒は、地域に貢献しようとする活動を考えるように。地域の方々から声をかけられることも増え、生徒の手応えに。

今後の課題と対策

- 学校運営協議会委員が、学校の取組や実情についてさらに理解を深めるため、日常の教育活動を見学することや、教職員と地域との交流・情報交換を充実するなどしていきたい。

一人ひとりが学び、郷土を愛する、
心豊かでたくましい人づくり

岩泉町教育委員会 教育長 下川 克彦

学校・家庭・地域が連携し地域に信頼され、地域に開かれた学校を実現することが求められています。

岩泉町では、「一人ひとりが学び、郷土を愛する、心豊かでたくましい人づくり」を教育目標に、学校・家庭・地域社会が協働する「目標達成型の学校経営」を推進しております。

コミュニティ・スクールに指定している6校（岩泉小学校、門小学校、小本小学校、岩泉中学校、小川中学校、小本中学校）においても、学校運営協議会を立ち上げ、保護者・地域住民が一定の権限と責任を持ち学校経営に参画することを通して、よりよい教育を実現するという目的に向かい、様々な活動に取り組んでいます。



地域ぐるみで子どもを支える 小・中一貫のコミュニティ・スクール

三鷹市の南西部に位置し、近くに国立天文台、ほたるの里、野川、龍源寺、国際基督教大学、アメリカンスクールなどがあり、教育資源の宝庫です。学校は、地域人材を積極的に活用して地域の特色を生かした教育活動を推進しています。



三鷹市立第七中学校

所在地：東京都三鷹市大沢2-11-12
電話：0422-31-1118
HPアドレス：<http://www.education.ne.jp/mitaka/7chu-jhs/>
教職員数：25名 学級数：9学級 生徒数：275名
指定日：平成18年10月6日

地域力を生かして 学校課題の解決を推進

学校の近くに広隆寺や嵐山等の名所旧跡が多くあります。また校区の太秦は、日本の映画発祥の地として全国的に有名です。校区は、住宅地として発展してきた地域です。

京都市立蜂ヶ岡中学校

所在地：京都市右京区嵯峨野開町1-1 電話：075-861-2168
HPアドレス：<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=204309>
教職員数：46名 学級数：22学級 生徒数：664名
指定日：平成20年11月11日

コミュニティ・スクールの取組が生み出した「成果」



相互乗り入れ授業

■教員の意識の変化

小学校の教員、保護者、地域の方々など、中学校区内の関係者との幅広いかわりを通じて、小学校との連続性を強く意識した授業や地域の人との協力による授業を積極的に展開するようになってきた。

■地域と学校の双方向の意思疎通が充実

学校運営協議会委員が、地域住民との意見交換の場「土曜講座『お話とふれ合いの会』」を開催。地域との連携がより密接に。

■小・中一貫教育の導入 ～9年間、地域と共に学ぶ～

小・中一貫カリキュラムにより、各教科・領域等で地域の「人財」を生かした学習を計画的に実践。学校運営協議会がサポート隊の募集にも力を発揮。



土曜講座



マナー学習

今後の課題と対策

■学校運営協議会の「人財」を確保することは、コミュニティ・スクールを基盤として小・中一貫教育を推進する上で重要な課題である。学校運営協議会と学校支援地域本部との連携により、地域の「人財」＝地域継承者を育てていきたい。

地域と共に創る学園

おおさわ学園長(第七中学校長)狩野 澄子

地域との連携・交流を深めるための秘策は「顔の見える関係づくり」です。

保護者・地域住民の学校教育へのニーズをつかみ、各種便りを発行して情報発信に努めるとともに、教員が生徒と共に地域行事に出かけたり、地域の教育力を学校教育に積極的に活用して「顔の見える関係づくり」を進めることです。

教員の意識を高める秘策は「子どもたちの学びが深まること」を実感させることです。

今後の目標と展望は学園マニフェストに基づいて、相互乗り入れ授業や交流活動を継続し、地域の人財・資源を最大限に活用しつつ、義務教育9年間に責任をもつ学園づくりを進めていきたいと考えています。



コミュニティ・スクールの取組が生み出した「成果」



小中学生と一緒に土曜学習



シニアの方と布草履作り



生態観察園「カブト虫の家」

■学力向上・生徒指導への地域のサポート

学校運営協議会で生徒指導や学力に関する学校課題について積極的に協議。学校運営協議会の学力向上推進部会と学校が連携して、学力向上土曜教室を実施。また、地域との連携による生徒指導（登校指導等）を充実。

■保護者からの協力が拡充

学校運営協議会が地域とのつながりを重視した行事の実施について意見を提言するとともに、学校行事等への保護者の参加を求める窓口を担当。多くの保護者・地域の方が行事や環境教育の取組へ参加。さらには、ボランティアへの協力も増加。

■学校の施設や学びを開く

学校運営協議会からの提案で、学校の施設を活用した赤ちゃん交流やシニア・ママさん学級を開設し地域住民に学びの場と時間を提供している。中学生とふれあう機会も増え顔の見える人間関係作りにも貢献している。

今後の課題と対策

■学校運営協議会を円滑に開催（日程の確保、協議内容の精査）することが課題となっている。既存の組織と学校運営協議会との統合や関係性の整理などが必要である。日程の固定化や会議内容の精査など、適切な年間計画を立案することや、既存の組織との協議などを進めていきたい。

学校の可能性に挑戦する学校運営協議会

校長 井上 方志

本校では、学校が地域の学習拠点となり、「つなぐ」をキーワードに住民同士がつながり、学び合い、支え合う「スクール・コミュニティ」を目指しています。また、本校の学校運営協議会は、「学校は地域の学び舎でもあり、学校の緑は貴重な地域の緑でもある」といった信念から、地域ぐるみで学校の可能性に積極果敢に挑戦しています。特に、「学力向上推進部会」では、土曜日の科学実験教室、各種検定や進路対策学習を、「保幼小中連携推進部会」では、乳児と母親が来校し中学生とふれあう「赤ちゃん交流」や地域に学びを広げる「シニア・ママさん学級」を展開しています。また、「環境教育推進部会」を中心に運営している学校の緑、あじさい園やカブト虫の家等は、生徒の学習環境に役立つと共に地域住民の憩いの場や学習の機会となっています。これら「つなぐ」をキーワードとした取組は、顔の見える地域社会を作り、子供たちに安心感を与え、災害や犯罪に対応できる安心安全の街作りにも貢献しており、本校はまさに、地域の赤ちゃんからシニアまでが集う中学校となっています。



学校運営協議会は、平成16年に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づいて設置されます。
この法律には、次のようなことが定められています。

- 1 教育委員会は、学校を指定して、学校の運営に関して協議する機関として、学校運営協議会を置くことができます。
- 2 学校運営協議会の委員は、保護者や地域の皆さんの中から、教育委員会が任命します。
- 3 指定された学校の校長は、教育課程の編成などについての学校運営の基本的な方針を作成し、学校運営協議会の承認を得なければなりません。
- 4 学校運営協議会は、学校の運営について、教育委員会や校長に対して、意見を述べることができます。
- 5 学校運営協議会は、学校の教職員の採用などについて、任命権を持つ教育委員会に意見を述べるすることができます(小・中学校の場合は、通常、都道府県教育委員会になります)。教育委員会は、学校運営協議会の意見を尊重しなければなりません。
- 6 学校の運営に大きな問題が生じている場合には、教育委員会は指定を取り消さなければなりません。
- 7 学校の指定の手続きなど、学校運営協議会の運営に関して必要なことがらは、教育委員会が規則で定めます。



このパンフレットについてのお問い合わせはこちらをお願いします

文部科学省初等中等教育局 参事官(学校運営支援担当)付 運営支援企画係
〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

TEL : (03)5253-4111(内線 3720) FAX : (03)6734-3727
e-mail : syosanji@mext.go.jp

詳しくは文部科学省ホームページをご覧ください

ホームページアドレス http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/index.htm
「文部科学省トップページ」→「教育 小学校・中学校・高等学校」→「コミュニティ・スクール」